

全国遺跡データベースの構築 Database of Archaeological Sites in Japan

森本 晋
Susumu MORIMOTO

奈良国立文化財研究所情報資料室、奈良市
Nara National Cultural Properties Research Institute
Nara 630-8577

あらし： 奈良国立文化財研究所では1987年度より全国遺跡データベースの構築を行っている。1996年度よりイントラネット対応データベースを導入してデータの更新を続けており、1998年度からはインターネットを経由しその成果を公開している。

Summary: Nara National Cultural Properties Research Institute (ab. Nabunken) began to study about the database of archaeological sites in Japan in 1987. More than 400 thousand sites are existed in Japan, and Nabunken has registered about 230 thousand of sites in the database. Now one can get the data via the Internet home page of the Institute (<http://www.nabunken.go.jp>).

キーワード: 遺跡、データベース、考古学、位置情報、標準化

Keyword: site, database, archaeology, location, standard

1 遺跡データベースの必要性

遺跡に関する情報は考古学の研究の上でも埋蔵文化財行政の上でも必要不可欠なものである。考古学研究においては、遺構も遺物も遺跡とのつながりをもった情報としてとらえなくてはならず、各種の遺物に関するデータベースも遺跡情報を必要としている。

従来、遺跡の情報はある地域の遺跡一覧という地理的な範囲を限ってか、ある遺物についての出土地名表といった限定的な形でしか提示されていないのが普通である。全国規模での網羅的な遺跡データベースの作成は行われていなかった。

2 開発の経緯

文化庁では1987年度より全国文化財データベース構築計画の調査費が計上され調査検討が始まった。奈良国立文化財研究所（以下、奈文研）では全国不動産文化財データベースの一環として全国遺跡データベースの設計・構築を行っている。

不動産文化財とは土地と結びついていてそこから切り離すことのできない、遺跡（史跡を含む）、名勝、天然記念物、建造物（指定建造物を含む）、伝統的建造物群保存地区をさす用語で、美術工芸品、無形文化財、民俗文化財といった動産文化財と対応する。

全国遺跡データベースについては文化財情報システム全体の設計と合わせてその実現に向けた設計調査を行っていた。その一環として1990年2月27日には奈文研で全国遺跡データベース検討会を開催し全国の担当者から意見を求めた。1992年9月には奈文研の『埋蔵文化財ニュース』75号で「全国文化財データベースについて」という特集を組み、全国遺跡データベースの詳細を公表している。

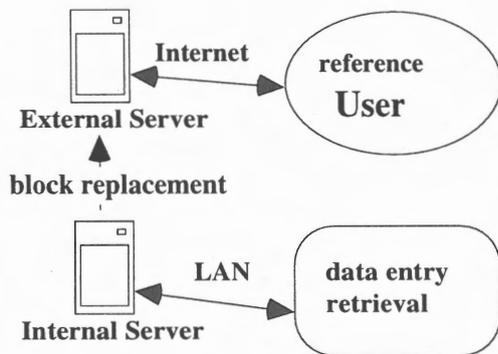
その後、こういった設計を実現するハードウェア、ソフトウェアの検討が続けられていたがシステムを実現するには相応の予算処置を待たなければならなかった。幸いにも1995年度末に補正予算によって奈文研の情報システムの一斉更新が可能となったので、遺跡のデータとしてまず都道府県別の遺跡地図から文字情報の入力を1996年度より外部発注により開始した。

ところが当初運用を予定していたワークステーションのOSのバージョンに対応したデータベースソフトのバージョンアップの遅れからそのままでは公開の見通しがたたなくなった。

このため、別のワークステーションを用意し、全

文テキスト検索エンジンを利用したデータベースの一般公開を開始した。しかし、このシステムもアクセス時にエラーが発生することがあるなど安定せず、暫定的に全国のデータを手作業で市町村別に分割してリストの公表を合わせて行っていた。

1996年度の終りになってPCサーバを導入し、M言語を用いたデータベースを構築した。ハードウェア、ソフトウェアの更新はその後も行っているが、これが現行のシステムである。奈文研内部でデータベースの更新を行うためのシステムと外部にデータを公開するためのシステムの2本建てとなっている。内部用、外部用ともにフィールドは同一で、更新の日時により若干の新旧はあるものの内容もほぼ同一である。いずれもインターネット・イントラネット対応となっており、検索・更新はクライアントパソコンのブラウザから行う。ただし、外部用データベースに対しては通常、検索のみが可能である。現行システムでの一般公開は1999年9月28日より行っており、利用者は登録や課金なく自由に検索が可能となっている。



Nabunken

構築初期の遺跡地図データに加えて、各地の新規の遺跡地図や文化財地名表、古墳の集成といった各種遺跡地名表から情報収集を行い、レコードの追加や内容の更新を行っている。また、遺跡の発掘調査報告書に添えられている報告書抄録の内容によるデータベース更新を合わせて行っている。

3 内容

全国遺跡データベースの設計については、『埋蔵文化財ニュース』75号に詳しい。現在の知見からすると改良すべき点が多々あるが、それらについては後述することとする。

全国遺跡データベースの基本的な考え方は、奈文研が提供するのデータの中核となる部分であって、

都道府県や市町村などの遺跡を調査する機関において必要なフィールドがあれば、それは各地での事情や需要に応じて独自項目としてローカルシステムを構築してリンクし利用するというものである。このためセンターシステムである全国遺跡データベースのフィールドは簡単なもの、地域的な偏在の少ないものとなっている。

研究者が必要とするような独自のフィールドについても個々の研究者においてローカルシステムとして構築してもらうのが最も効率的なやり方であると考えている。

以下、現行の全国遺跡データベースのフィールドについて解説する。このフィールド名などは『埋蔵文化財ニュース』75号段階ではなく、現在公開中のデータベースに従っている。

全国遺跡データベースは次の27フィールドで構成する。

- ID
- 市町村ID
- 種別
- 名称(漢字)
- 名称(かな)
- 所在地コード
- 所在地
- 境界文化財ID
- 所有者種別
- 主な時代
- 指定区分
- 調査・発掘の有無
- 文献の有無
- 地形図番号
- 緯度
- 経度
- 時代・遺跡種別
- 立地
- 現況
- 保存状況
- 面積
- 遺跡地図番号
- 群集遺跡ID
- 遺構概要

遺物概要

発掘概要

その他概要

これらのフィールドのうち、「ID」から「経度」までを共通項目群と呼ぶ。これらは全国遺跡データベースだけでなく、ほかの不動産文化財のデータベースにも共通するフィールドである。「時代・遺跡種別」以下のフィールドは全国遺跡データベースに固有のフィールドであり、遺跡項目群と呼んでいる。

ID

「所在地コード」と「市町村ID」を組み合わせたものの末尾に「種別」コードを加えて、遺跡のIDとする。12桁の数字として計画。

市町村ID

遺跡の所在する市町村ごとに遺跡に付与されたユニークな番号。6桁の数字として計画。

種別

不動産文化財の中での区分のためのフィールドで遺跡にはすべて「1」が与えられる。ちなみに名勝には「2」、天然記念物には「3」、建造物には「4」、伝統的建造物群には「5」、その他には「9」を与える計画である。

名称（漢字）

遺跡の名称、ひとつの遺跡に対していろいろな呼び方がある場合は / で区切って並記する。

名称（かな）

遺跡の名称の読み方をひらがなで記載する。ひとつの遺跡に対していろいろな呼び方がある場合は「名称（漢字）」と対応させて / で区切って並記する。この「名称（かな）」は実際に発音した場合の読みを記載するので、例えば「No.1遺跡」は「な ンぱーいちいせき」となる。

所在地コード

自治省が定める全国地方公共団体コードの市町村コード（5桁のアラビア数字）を使用する。複数の市町村にまたがる遺跡の場合 / で区切って並記

する。

所在地

都道府県名から記載する。町名変更などがあった場合、資料があれば最新のものに更新する。複数の市町村にまたがる遺跡の場合所在地コードの記載と対応させて / で区切って並記する。

境界文化財ID

複数の市町村にまたがる遺跡の場合に、それぞれの市町村IDを記載する。

所有者種別

遺跡地の主な土地所有者についてコードを記入する。所有者が国は「1」、都道府県は「2」、市町村は「3」、寺院は「4」、神社は「5」、法人は「6」、個人は「7」、その他は「9」を与える。

主な時代 コード

項目名	コード	
旧石器	10	
縄文	20	
弥生	30	
古墳	40	
古代	飛鳥白鳳	50
	奈良	51
	平安	52
	細分不明	69
中世	鎌倉	60
	南北朝	61
	室町	62
	戦国	63
	細分不明	69
近世	安土桃山	70
	江戸	71
	細分不明	79
	明治	80
不明	90	

主な時代

遺跡の主な時代についてコードを記入する（前ページの表参照）。

指定区分

遺跡に関しては、国指定特別史跡は「11」、国指定史跡は「12」、都道府県指定史跡は「13」、市町村指定史跡は「14」を入力。

調査・発掘の有無

「0」をなし、「1」をありとして入力。詳細については「発掘概要」を参照することとする。

文献の有無

「0」をなし、「1」をありとして入力。

地形図番号

遺跡の範囲を含む国土地理院発行の25,000分の1地形図の地図番号。複数にまたがる場合は / で区切って列記する。

緯度

遺跡位置代表点の緯度。度分秒で表した数値を単位記号を入れずに表記する。

経度

遺跡位置代表点の経度。度分秒で表した数値を単位記号を入れずに表記する。

時代・遺跡種別

時代と種別を別のフィールドとして設けただけでは混乱が生じるため、その組み合わせについてコード化したもの。次ページに表を掲げる。

組み合わせを用いるのは、例えば、複合した遺跡で縄文時代の集落と弥生時代の墓が発見されていた場合、時代が「縄文」「弥生」、種別が「集落」「墓」とだけデータ登録されていたのでは、縄文時代の墓も発見されているような誤解が生じるためである。

立地

コードを入力。山地は「1」、丘陵は「2」、台地

「3」、扇状地「4」、低地平地「5」、水底「6」、それらに該当しない島については島嶼「7」を与える。

現況

コードを入力。市街地・集落は「1」、道路は「2」、墓地は「3」、耕作地は「4」、山林・原野は「5」、河川は「6」、その他は「9」を与える。

保存状況

コードを入力。遺跡全体が良く保存されている場合は保存として「1」、遺跡の一部が破壊されている場合は不良として「2」、遺跡全体が消滅している場合は消滅として「3」、不明は「4」、その他は「9」を入力。

面積

遺跡の面積の実際の値を1平方メートル単位で記入。概数の場合も末尾の0を略さずに記述する。

遺跡地図番号

文化庁編『全国遺跡地図』での遺跡地図番号と遺跡一連番号。この遺跡地図にないものについては空欄となる。

群集遺跡ID

古墳群の場合などで、個々の遺跡のほか群全体にも市町村IDが振られている場合それを記入する。

遺構概要

遺構に関する概要を情報源とともに記入する。

遺物概要

遺物に関する概要を情報源とともに記入する。

発掘概要

発掘調査に関する概要を情報源とともに記入する。

その他概要

当該遺跡に関する記載のある文献名や、変更前の遺跡番号などを記入する。

時代・遺跡種別（2010）コード

遺跡種別 時代		居住集落						生産関連					墓・祭祀						その他			
		集落	洞穴	貝塚	宮都	官衙	城館	交通	窯	田畑	製塩	製鉄	その他	墓	古墳	横穴	祭祀	経塚	社寺	集石	散布地	その他
旧石器		1001	1002	1003				1007					1012	1013			1016			1019	1020	1021
縄文		2001	2002	2003				2007			2010		2012	2013			2016			2019	2020	2021
弥生		3001	3002	3003				3007		3009	3010		3012	3013	3014		3016			3019	3020	3021
古墳		4001	4002	4003				4007	4008	4009	4010	4011	4012	4013	4014	4015	4016			4019	4020	4021
古代	飛鳥白鳳	5001	5002	5003	5004	5005	5006	5007	5008	5009	5010	5011	5012	5013	5014	5015	5016	5017	5018	5019	5020	5021
	奈良	5101	5102	5103	5104	5105	5106	5107	5108	5109	5110	5111	5112	5113	5114	5115	5116	5117	5118	5119	5120	5121
	平安	5201	5202	5203	5204	5205	5206	5207	5208	5209	5210	5211	5212	5213			5216	5217	5218	5219	5220	5221
	細分不明	5901	5902	5903	5904	5905	5906	5907	5908	5905	5910	5911	5912	5913			5916	5917	5918	5919	5920	5921
中世	鎌倉	6001	6002	6003	6004	6005	6006	6007	6008	6009	6010	6011	6012	6013			6016	6017	6018	6019	6020	6021
	南北朝	6101	6102	6103	6104	6105	6106	6107	6108	6109	6110	6111	6112	6113			6116	6117	6118	6119	6120	6121
	室町	6201	6202	6203	6204	6205	6206	6207	6208	6209	6210	6211	6212	6213			6216	6217	6218	6219	6220	6221
	戦国	6301	6302	6303	6304	6305	6306	6307	6308	6309	6310	6311	6312	6313			6316	6317	6318	6319	6320	6321
近世	細分不明	6901	6902	6903	6904	6905	6906	6907	6908	6909	6910	6911	6912	6913			6916	6917	6918	6919	6920	6921
	安土桃山	7001	7002	7003	7004	7005	7006	7007	7008	7009	7010	7011	7012	7013			7016	7017	7018	7019	7020	7021
	江戸	7101	7102	7103	7104	7105	7106	7107	7108	7109	7110	7111	7112	7113			7116	7117	7118	7119	7120	7121
明治	細分不明	7901	7902	7903	7904	7905	7906	7907	7908	7909	7910	7911	7912	7913			7916	7917	7918	7919	7920	7921
		8001	8002	8003	8004	8005	8006	8007	8008	8009	8010	8011	8012	8013			8016	8017	8018	8019	8020	8021
不明		9001	9002	9003	9004	9005	9006	9007	9008	9009	9010	9011	9012	9013	9014	9015	9016	9017	9018	9019	9020	9021

4 検索

実際の利用はWWWのブラウザから行う。従って比較的新しいバージョンのブラウザが動作するインターネットにアクセスできるパソコンからであれば利用可能である。

データベースは奈文研のホームページ、<http://www.nabunken.go.jp>、からアクセスする。簡単な説明のページがあり、検索を選択すると、単純な構成の検索要求画面となる。検索は基本的に全文検索でフィールドを特定せずに行う。オプションとしてフィールドを指定した検索も可能である。

例えば「茶白山」を検索する場合はただ単に検索の言葉の欄に「茶白山」と入力して探せばよい。現在、全体で224260件の遺跡が登録されていて、「茶白山」でヒットするのは379件であり、1ページに16件ずつが表形式で表示される。これを一覧表示と呼んでいる。次ページ上段を参照。フィールドとして「名称(漢字)」に「茶白山」を含むものとして指定すると、360件がヒットする。

検索を繰り返すことで絞り込みを、1回の検索に際して検索語句の欄に複数の検索語句をスペースで区切って表記することによってOR検索を行うことが可能である。

それぞれのデータについて詳細な情報を得たい場合は、一覧表示の各列の先頭にある番号をクリックすることで、詳細表示を行う。次ページ下段参照。後に述べるようにフィールドによってはデータが入力されていないものがある。

5 問題点

現行のシステムはフィールド構成の設計から時間がたっていることもあり、種々の問題点がある。もともとシステム自体の問題ではなく、遺跡あるいは遺跡地図そのものが持つ性質による問題点も多い。まず、前者から検討する。

5.1 現行のフィールドに関する問題点

ID

下記のように適切な「市町村ID」を得ることができないために「ID」をキーとすることができないレコードがたくさん存在する。

市町村ID

データベースの設計時には整数を想定していたが、実際の資料では、英字やハイフンあるいは枝番などが含まれていることもある。都道府県単位の番号だけで市町村としての遺跡番号がないところがある。

また、市町村合併により番号などは当然重複が出てくるがそれをどのように処置するかが決まっていないう上、同一市町村内においても番号の変更がかなり頻繁なことがある。

以上のように現在入力に用いている資料からは同一市町村内においてすべての遺跡に付与されていかつユニークな数字としての「市町村ID」を得るには無理がある。

名称(漢字)

現状ではこのフィールドが遺跡を弁別するためのキーとなっている。キーとするためには同一市町村には同一名称の遺跡はひとつしか存在してはいけないことになるが、完全にそうになっているわけではない。また市町村合併により同一名称となってしまう場合もあり得る。

名称を持たない遺跡も数多く遺跡地図には記載されておりそれらを適切に処理する必要がある。所在地名から○○所在遺跡といった仮称を与えるのも一案であるが、その際は仮称が本データベースによる独自ものであることを「その他概要」に示す必要がある。

遺跡名の変更も頻繁に起こるのでどれとどれを同一遺跡と判断するかむづかしい。これは遺跡範囲の変更とも連動している問題である。

名称を複数持つ遺跡も存在する。この場合は主たる名称がどれであるかを判断しなくてはならない。

所在地

所在地の記載をどこまで詳しくするかは資料によって異なる。広範囲に渡る遺跡の場合、所在地をいくつか / で区切って並記することになる。地名表記の変更もかなり頻繁におこる。旧地名を「その他概要」に記載しなくてはならないこともあろう。地名だけが変更された時、その地名に基づいて命名された「名称」だけが残って「名称」の由来が不明になるためである。

境界文化財ID

奈良国立文化財研究所 全国遺跡データベース

検索 0. [遺跡データベース] 224260件
 絞り込み 1. [茶臼山] 379件



RecNo.	ID	名称(漢字)	所在地	時代・遺跡種別
223707		下関発茶臼山遺跡	石川県能美郡辰口町下関発/チャウスヤマ	2001/6901
223708		茶臼山製鉄跡群	石川県能美郡辰口町善久	9011
223883		茶臼山城跡	山口県山口市大字黒川字河内	6906
224046		茶臼山城跡	山口県防府市大字富海(茶臼山)	6906
224105		茶臼山城跡	山口県岩国市大字通字山田	6906
224512		茶臼山城跡	山口県柳井市大字日輪字小園	6906
224547		前田茶臼山遺跡	山口県下関市前田町1丁目	5905/5918
224576		群伏茶臼山遺跡	石川県河北郡字ノ気町群伏	3001
225232		茶臼山古墳群1号墳	三重県四日市市大字泊村字釜ノ井738-3	4014
228418		太田北遺跡(太田茶臼山古墳・伝説(天童陵外堤部外周))	大阪府茨木市太田3丁目202-1	4014/6920
228550		別所茶臼山古墳/円福寺茶臼山古墳/宝泉寺茶臼山古墳/宝泉村5号墳	群馬県太田市大字別所字茶臼山	4014
228684		赤堀茶臼山古墳/赤堀村260号墳	群馬県佐波郡赤堀町大字今井字溝島	4014
229306		壬生茶臼山古墳/羽生田茶臼山古墳	栃木県下都賀郡壬生町羽生田古敷	4014
229417		堀米茶臼山古墳	栃木県佐野市堀米町茶臼山	4014
233293		四天王寺旧境内・茶臼山古墳	大阪府大阪市天王寺区四天王寺2-55-3、逢坂2-17-3・16・17	6918/7101
233542		北山茶臼山古墳/北山西古墳	群馬県富岡市南後園	4014

全体の内、16件が表示されています。↑ボタンでスクロールします。一覧表ボタンで一覧表を選択します。メニューボタンでデータベース選択に戻ります。一覧表のID番号をクリックすると、そのカードを表示します。

語句をスペース区切りで並べるとOR検索になります。
 フィールド指定で、指定したフィールドのみを検索対象にできます。

言葉

奈良国立文化財研究所 全国遺跡データベース

検索 0. [遺跡データベース] 224260件
 絞り込み 1. [茶臼山] 379件

メニューボタンでデータベース選択に戻ります。↑ボタンでカードをめくりします。一覧表ボタンで一覧表に戻ります。



RecNo=#228232	
ID	
市町村ID	188
種別	1
名称(漢字)	茶臼山古墳群4号墳
名称(かな)	ちゃうすやまこぶんぐんよんごうぶん
所在地コード	24202
所在地	三重県四日市市大字泊村字釜ノ井738-3
境界文化財ID	
所有者種別	
主な時代	H0
指定区分	
調査・発掘の有無	
文献の有無	
地形図番号	
緯度	345632
経度	1363546
時代・遺跡種別	4014
立地	
現況	
保存状況	
面積	
遺跡地図番号	
群集遺跡ID	
遺構概要	市報16(なし)
遺物概要	市報16(5世紀後半-土師器(甕・高坏・甕)・須恵器(ハソウ・二重ハソウ)・円筒埴輪(淡輪系)・形埴輪(割頭形・馬形・太刀形))
発掘概要	地中送電線新設工事
その他概要	市報16-1996.3

「市町村ID」を設定できない遺跡についてはこのフィールドも十分に機能できない。

所有者種別

ハードウェアの高速化・大容量化によりコード化する必要性は薄れている。ある程度の範囲のある遺跡に対してその土地所有者を決定するのは判断基準の詳細な提示がないと不可能である。現在使用している素材からは所有者について十分な情報が得られないためにこのフィールドは空欄であることが多い。

主な時代

資料の時代の提示の仕方がまちまちであり、記載が難しい。特に長い時代にわたる遺跡の場合どれが主たる時代であるかの判断材料がないことが多く、羅列した記載になる傾向がある。現状では複数の「主な時代」を時代順に表記しており、主な「主な時代」順になっているわけではない。

指定区分

ハードウェアの高速化・大容量化によりコード化する必要性は薄れている。指定区分の記載については種類がごく限られているので、自然言語で記述しても問題は少ないと考えられる。

調査・発掘の有無

設計ではこのフィールドの値としては有無を表す「0」か「1」がはいるだけである。このフィールドを設ける意義は少ない。

文献の有無

設計ではこのフィールドの値としては有無を表す「0」か「1」がはいるだけである。このフィールドを設ける意義は少ない。設計では全国遺跡データベースと平行して不動産文化財文献情報データベースを構築することとなっていたが、実現していない。全国遺跡データベースと不動産文化財文献情報データベースとは「ID」でリンクを貼ることが計画されていたが、前記の理由で「ID」を有効に利用することができない状況にある。

緯度

秒の部分については小数点以下の表記も認める。

経度

秒の部分については小数点以下の表記も認める。

時代・遺跡種別

遺跡について検索する場合このフィールドが一番キーとなる。従って、時代および種別についての区分や表記は常に最善のものでなくてはならない。

北海道や沖縄県方面での時代区分との対照も明示する必要がある。

立地

ハードウェアの高速化・大容量化によりコード化する必要性は薄れている。広域遺跡において主な「立地」をどうやって認識するか、その区分とともに検討する必要がある。

現況

ハードウェアの高速化・大容量化によりコード化する必要性は薄れている。広域遺跡において主な「現況」をどうやって認識するか、その区分とともに検討する必要がある。

保存状況

ハードウェアの高速化・大容量化によりコード化する必要性は薄れている。「保存状況」についても前ふたつのフィールドと同様の問題が存在する。ほんの一部でも破壊されていたら「完存」ではなくなると「完存」の遺跡はなくなってしまうことにもなるので、区分については基準の提示が必要となる。

面積

「面積」についての記載がある情報源が少ない。

群集遺跡ID

「ID」がうまく機能していないことからこのフィールドも十分に機能していない。

遺構概要

どこまで詳しく記述するかについて検討が必要。ただ、表記について標準化することは困難である。